



特集

# 瑩山禪師ものがたり ①



## お生まれになるときから

### 観世音菩薩さまに守られてきました

#### ご存知ですか？ 瑩山禪師

曹洞宗では、仏教を開かれたお釈迦さま、曹洞宗を確立された道元禪師、そして、道元禪師から数えて四代目の瑩山禪師を、一仏両祖として大切にしています。

現在、曹洞宗は、全国に約二万五千の寺院と八百万人の檀信徒を擁し、わが国最大の仏教宗団に発展しています。その発展の基礎を築かれたのが瑩山禪師です。

曹洞宗には、大本山が二つあります。ひとつは福井県にある大本山永平寺であり、もうひとつは横浜市にある大本山總持寺です。これを両大本山といいます。大本山永平寺は道元禪師が開かれ、大本山總持

寺は瑩山禪師がお開きになりました。曹洞宗ではお二人を「両祖」として大切に敬っているのです。

#### 三十七歳でみごもったお母さま

瑩山禪師は、文永五年（一二六八）越前の国多禰村（現在の福井県越前市）の豪族瓜生氏の長男として生まれました。お母さまの懐観大姉は三十七歳での懐妊でした。ある夜、輝く朝日を飲む夢を見たのが、その兆しでした。

「何とか安産で生みたい」その一心ですがつたのが、深く信仰してきた観世音菩薩さまでした。多禰の観音堂に日参して、二日に三百三十三回礼拝し観音経三十巻の読

No. 56  
2019 Spring

## 山松 寺南 臨

経を続けたのです。

「世のため人のために働く立派な男子を無事に生ませてください。世の中に害を及ぼしそうな私の身とともにほろぼしてください」

こうして七か月。その日も観音堂に参詣していましたが、

にわかに産気づき、そのまま境内で出産してしまいました。お母さまが歩いているときに産気づいたので、幼名は「行生」と名付けられました。

#### 観音さまとの深い縁

お母さまのお母さま、瑩山禪師にとつては祖母にあたるのが、明智優婆夷です。優婆夷とは出家していない女性信者のこと。中国から帰国した道元禪師のもとを訪ねて最初の女性門人となった人物です。

妙智は娘の懐観が十歳のころ何も告げずに、家族の前から姿を消しました。十八歳になった懐観は母の消息を求めて京都・清水寺の観世音菩薩さまに願をかけます。

満願の日の帰り道、六センチほどの小さな十二面観音像を拾いました。家にまつて礼拝していると幾日もしないうちに、お母さまの行方を知らせる手紙が舞い込んできました。母に再会できた懐観は、観世音菩薩さまをさらに深く信仰するようになったのです。

やがて、八歳になった瑩山禪師はお母さまに連れられて永平寺に登ることになります。その話は次回といたしましょう。



元曹洞宗管長の板橋興宗禪師が住職を務められる御誕生寺

卒寿われ 母に彼岸の燭ともす 山口青邨

## 三月二十四日は彼岸会です ご先祖様に手を合わせましょう



春分の日を中日とし、前後三日  
ずつをあわせた七日間を「彼岸」と呼びます。今年は、二十一日が「彼岸の中日」、十八日が「彼岸の入り」、二十四日が「彼岸結願」になります。

悩みと迷いにあふれたこの世「彼岸」に対して、「彼岸」は執着から解き放たれた安らかなあの世のこと。お彼岸の七日間は、彼岸に渡るために自分たちの生活を見直すとともに、ご先祖様のご冥福を祈る先祖供養の大切な時期です。

お彼岸は、平安時代の初めに貴族から始まり、やがて武士に広まり、江戸時代に庶民に行きわたりました。春分の日には太陽が真西に沈みます。西方浄土を拝むのに最もふさわしい時期として定着したようです。



ご家族そろって先祖供養いたしましょう

臨南寺では、彼岸結願の二十四日午後二時から彼岸会施食会を修行いたします。施食会では、亡くなられた方の冥福をお祈りし、先祖供養の法要を行います。ご家族そろって彼岸会施食会にお参りいただき、お墓を清めご先祖様に手を合わせましょう。当日ご都合の悪い方は、不参でのご回向をお受けいたしますのでお問い合わせください。

## 寺景 臨南百景



## 大権修理菩薩様

大堂の正面、ご本尊の右隣にまつられているのが大権修理菩薩様。正式には「招宝七郎大権修理菩薩」と呼びます。

大権修理菩薩様は、上海の南に位置する寧波の近くの招宝山の山神でした。招宝山は海に臨む地にあり、

港には外国の船が入りしていましたが、右手を額にかざして遠くを眺める姿に、命をかけて海を渡る人たちから、航海の安全を守る神様と信仰されてきました。

特に曹洞宗と



唐時代の帝の衣服を身にまとう大権修理菩薩様

は縁が深い方です。道元禪師が宝慶三年（一二二七）に、如浄禪師から正法を得て中国から帰国する際に、大権修理菩薩様の化身が現れ、「禪師様に従って日本に渡りたい」と言います。道元禪師が「身体を小さくするなら」と言われると、十センチほどの白い蛇になり、僧侶の食器である応量器の中に身を入れて、道元禪師の航海の無事を見守られたと伝わっています。無事に帰国された道元禪師は「大権修理菩薩様のご加護のたまもの」と喜ばれました。

曹洞宗のお寺でしか見られない珍しい菩薩様。臨南寺でも大切におまつりしています。



住職  
日誌

# この春のお彼岸は 平成最後のお彼岸に なりますが

今年も早いもので、春のお彼岸を迎える時期になりました。

昨年より何かと平成最後ということばを耳にしました。

この春のお彼岸も平成最後のお彼岸になります。



臨南寺 住職 大澤正道

四月に天皇陛下が退位され、五月には皇太子殿下が天皇に即位される特別な年です。

特別な年ではありませんが、平成最後のお彼岸もその先の生活も、いつも通り平常心で日々を過ごしていけたらと思います。

お寺に隣接するキンチョウスタジアムが今年の三月から

部分的に解体され、二〇二一年三月までの期間で建設工事に入るそうです。

工事期間中は騒音等が予想されます。法要等ではご迷惑と思いますが、地元の方々のツソ大阪のホームグラウンドの改修です。どうぞご理解いただきしたいと思います。

合掌

## 臨南寺行持予定（三〜五月）

○ **彼岸写経会** しんがくつがひ \*三月二十日 午前十時〜午後三時（受付は随時）  
亡くなられた方やご先祖を偲びながら、二文字・三文字心を込めて、お写経なさいませんか？ 大本山總持寺に納経させていただきます。（納経料千円）

○ **彼岸会お墓経** ひがんえ \*三月二十日・二十一日 午前十時〜午後三時（受付は随時）  
お彼岸のお墓経を承ります。臨南寺にお墓をお持ちの方に限ります。（回向料二万円）

○ **マトリお墓経** まかりおぼろ \*マトリにて。お日にちはお問い合わせください。  
午前十時〜午後三時（受付は随時）

お彼岸のお墓経を承ります。お申し込み多数の場合は各家ご同席での読経になります。（回向料二万円）

○ **春季彼岸会施食会** ひがんえせじきえ \*三月二十四日 本堂にて  
午後二時〜午後二時三十分

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な期間です。ご先祖様を偲び今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。（回向料二万円）

○ **釈尊降誕会（花祭り）** しやくそんかうたんえ \*四月八日 午前九時 本堂にて

お釈迦様のお誕生日に、感謝と報恩の法要を行います。誕生仏様に甘茶を注いでお祝いしましょう。

○ **がつしよう園マトリ合同法要** \*五月十二日 午後時〜

マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行い、マトリでご焼香していただきます。

### 早朝坐禅会

毎月第一土曜日（二月、八月は無し）午前六時半〜 本堂にて

### 写経会

毎月二十日（八月は無し）午前十時〜午後三時 写経料・千円

\*いずれも急に中止になる場合がありますので、前日に確認してください。

お気軽にご参加ください

# 二月末から鏡山部屋が やってきます

今年も三月十日から大阪で春場所が始まります。二月末には境内に鏡山部屋がやってきます。

鏡山部屋は現役力士二人と少人数ですが、部屋の歴史は古く江戸時代からの名門で、先代の親方は横綱柏戸です。現在は元関脇多賀竜が鏡山を襲名、相撲協会理事として協会の運営と弟子の育成に励んでいます。

この部屋の元魄龍関は、一九七九年に新十両に昇進。以降十両に定着し安定した成績を残しましたが、幕内昇進は果たせませんでした。一九八八年現役を引退。協会の若者頭として後進の指導に当たってきました。十両在位四十七場所は史上七位タイ、幕内未経験力士では史上最多です。二〇〇〇年に伯龍と改名。今年の春場所を最後に若者頭を定年で退職します。境内で見かけたらねぎらいの声をかけてあげてください。



現役時代の魄龍関の雄姿

## この道は、自転車もご利用ください

この歩道は、徒歩の方や車椅子の方だけでなく、自転車の方もご利用いただけます。

数年前から当寺院の境内地で人身事故が発生しています。境内での運転は最徐行をお願いします。

改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを禁止いたします。

なお、境内地内での事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いません。



## 桜がもうすぐ 咲き始めます



境内で一番早く咲くのは、本堂前にある河津桜です。三月には満開を迎えます。彼岸会にお参りの頃は散り始めているかも知れません。

山門横の東日本大震災復興祈願桜も芽吹き始めています。どうぞお楽しみください。

## 編集後記

1月21日から2週間、ブラジルに行ってきました。飛行機で25時間、35℃の真夏でした。広い大地に豊かな自然。地震も台風もないのに貧富の差は歴然。日系の人たちの温かさが心に響きました。3世、4世で言葉がおぼつかなくても、日本の心は生きていました。(M)

「ほ〜っと」56号

平成31年2月

編集・発行：稜伽林「ほ〜っと」  
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com